

新靈界物語
(新宇宙の真理の書)

大本教 教祖 出口王仁三郎
再降臨者 我存在アル/弥勒如来

2011年 2月 28日

1 . 出口王仁三郎との再会

1 - 1 . 疑問

現在、 2011年2月28日、



人類最後の
日を迎える
のに、一年
を切ってい
る。宗教や、

その団体に対して、我存在アル、
天地創造主として随分対策をして

きたが、このタイミング、 20
11年2月26日、27日に今な
ぜ、京都に行き、大本教教祖の出
口王仁三郎の生誕地に向い、



修行の岩窟に行き、





本部道場
に向かう
のか、が、
不思議だ
なあと思

いながらも、教団の信徒や、見守
る神々からの要請を受け、我々は
京都に向かった。

通常は、一教団のためだけに、
対策に向かうことなどはなかった
ことだ。しかも、過去に、王仁三
郎は、大胆にも自らを弥勒菩薩で

あるなどと、たわけた事をいう教祖など、我々神々が消滅を行う対象となっていた（5年前までそう思っていたのだから）のだからね。

実際、後で分かったことだが、互いに時空間を越えてエネルギーや法的な力を発することのできる私と王仁三郎は、互いにほとんど同一人物である（私が王仁三郎の生まれ変わりである）とは知らず、攻撃と防御を行っていた事が分かっている。

彼王仁三郎の死後 7 年後には大山として再降臨したので、ほとんど大山と彼とは能力も、才能も、弱点も近かったのだ。(しかし、アルとは、決定的な違いがあるのだが・・・)

ほとんど大山と言っても過言ではないのだ。ただ違うのは、彼が慌てて自らの命を縮め霊界に戻った理由、自らを天地創造主であったという記憶を戻さなかったことである。

そして、この記憶の差と天地創造主として体験して対策したアルとの差は大きいのだ。

さて、京都に行く前には当然、王仁三郎イコール私であるという明白な記憶の甦りと、自動書記による記録保証と、神々の会話の翻訳による裏づけは120%の正しさを表していた。また、釈迦のときに導いた梵天が我存在アルのハイヤーセルフであり、王仁三郎を導いたものもやはり梵天であると

いうことも120%ははっきりと分かっている。梵天とは、私、我存在アルそのものである。自らを自らが導くことは、神々の世界では普通にあることなのだ。私の頭には、なぜ、ほとんど完璧な王仁三郎は、弥勒である使命を途中で中断して、死したのか？というとてもつもない疑問があったのだ。

ついに27日に彼の口から回答があった（彼の言葉を翻訳して分かったことなのだ）。彼は、自らを

キリストの再降臨、釈迦の再降臨
であるとまで自覚していた。今の
私とまったく同じである。当然の
ことなのだが、私、アルが中身な
のだから、当然正しいことだ。私
も同じことをいっている。しかし、
彼の作った本部が明智光秀の城を
改築して作るとは、



不思議な
ことだ。私
は、つま
り、彼も、
織田信長

なのだからね。謀反の時の恨みを捨てたということか？（この理由については、後に判明した = 大変なことだった = つまり、真のアル = 織田信長を何れ謀反で攻撃するという意思表示であったのだが・・・・）いつか、これについて本人の口から聞いてみたいと思う。

彼は、当局の弾圧もはじき飛ばし、いよいよ弥勒の世とするために活動を開始するのだが、一つの彼の疑問があった、それは、同じ現象

を見たときに、なぜ、人によって捉え方が違うのか？という疑問である。

彼は、私にもそれを言ったが、彼は遺伝子にその原因があると知っていたのだ。大本教の会報にも、弟子たちにもそれを伝えている、記録が残っているので彼がそれを知っていたことは明白だ。つまり、遺伝子を触れる、治せる立場に自分ならねば根本的な対策はできないという彼に突きつけられた事

実である。彼は知らなかったがさらに言えば、ろくよんの法則がある、天地創造主として私が造った法則である。これらに対策できる立場に自分ならねば真の対策はできない、という事実。そして、彼はついに自分がその立場になれるために、別の人間に入る方法について考えを進め、ついにその方法を行うに値する仮説と、その仮説を保証するであろう120%の自信を得たのだ（彼自身に聞いた、録音しているので、後ほど聞いて

ほしい)。そして、彼は、早々に靈界に戻ったのだ。そして、7年後に私の前身、大山という日本人に再び入ったのだ。ここに、天地創造主であり、存在アル、また、すべての記憶を戻し、神となり地球に再降臨したのだ (実は大山以外にも佐々木俊兼というものにも、再降臨していたのだ。魂を二分していたのだ)。

1-2 王仁三郎の妹 上田きぬの声

ここに、上田きぬ (死した者) の声を聞かせよう。YouTube の法話 39 を聴いて下さい。

1 - 3 王仁三郎 慌てて霊界に戻る

ここに、王仁三郎 (死した者) の声を聞かせよう。YouTube の法話 4C を聴いて下さい。

2 国造り

2 - 1 弥勒とは何か ? 弥勒誕生の謎

「火」は陽でイザナギであり、「水」は陰でイザナミであり、火と水が合わさって「火水 = 神」となる。この火と水が世の元、つまり「天御中主神 = 国常立尊」だと神示はいう。国常立尊と素戔嗚尊も表裏一体である。原始地球でマグマ (国常立尊) が地下

に鎮まり、素戔嗚尊は海原を治めるようにイザナギに命じられた。「クモ出てクニとなったぞ」とは、海水が蒸発して雲となり、海と大地に分かれたことを意味しているようだ。「豊雲野」は文字通り、雲と野(大地)であり、更に「出雲とはこの地の事ぞ」とあり、国常立尊と素戔嗚尊と豊雲野尊の密接な関係が窺える。そして火は「日」を、水は「月」をそれぞれ象徴し、それが融合して「雲=地」が誕生した。表現こそ違おうが、アリオンは「日と月が合わさって星となる予定だった」と述べているが、国旗でいえば「日=アマテラス圏」「月=ツキヨミ圏」「星=スサノオ圏」ということに符合する。出雲族と日向族が融合できなかった為に、スサノオが「神ス

サノオ」になれなかったということなのだ。だが、これも神のシナリオだったことは既に述べた通り。数霊では「火 = 五」「水 = 六」だが、これに「地 = 七」を加えると、「火水地 = 日月地 = 五六七」となる。つまり、666として地下に鎮まっていたルシファー (国常立尊) が、スサノオとして地上に顕現し、悪神と形容される体主霊従主義のエネルギーと融合し、「神スサノオ = 五六七 (ミロク)」となるということである。

2 - 2 弥勒は既に誕生した

すでに、サターンを私は再生し、スサノウの尊も再生し、有機的に合体させ、私我存在アルと有機的に合体

している。つまり、私が造った人間の体に入った弥勒如来だということだ。

釈迦として没する時に、自らの口で「我は弥勒如来なり、ここに降臨した」と伝えると言ったが、それを実行している。

聖と魔との合体なので、非常に強いエネルギーと法の力だ。いまだかつてこのようなものを纏ったことはない。あの、先の絶対神であったマウ・リサの時より、遥かに強いのだ。そして、とても強い静寂がここにはある。これが、我存在アルの神体だ。これが、弥勒如来なのだ。

やるべきことは、最後の審判だ。実

行中であり、宮城県で震度7の地震が発生している。東京で5弱だ。名古屋でも大きく横揺れがあったが、これは、私がしていることだ。もちろん最後の審判だ。命が死しるとも、生きるので心配は無用だが、霊体に戻ったあと、本当の審判を私が行なうのだ。死してのちが本当の審判の場なのだ。

2-3 たましのからくり

現在2011年3月18日、私は最近段々と、下品で、無慈悲の自分を自覚していた。どうも変だなと、いくつか感じるがあったのだ。

1 何時も近くにおいて、サポートしてくれているものたちへの、配慮のなさ

2 人間界など、どうなってもよいといふ意識の強さ

3 天照大御神への消滅できない力

4 八百万の神たちへの防御の弱さ

5 出口王仁三郎への意識の強さ

6 出口家からの攻撃の防御のなさ

7 身体と神体へのダメージの強さ

8 排除できない身体や神体への憑依現象

9 アル自身をも消滅をかけるとその憑依が楽になること

やっと、今日までのカラクリがすべて解けた。そして、5時43分から対策を開始した。

出口王仁三郎は、弥勒となるために、早々と霊界に戻った。そして、一人ではなく二人に霊体を入れたのだ。確実に自分が弥勒となるようにだ。

ひとりは、佐々木俊兼、そら、あの敦子の元旦那、もうひとりは、大山昌彦(私の前身)だったのだ。同じ霊体であり同じ目的を持つ者であるので、遺伝子情報は非常に近いのだ。遺伝子には、前身情報、霊界情報も記

録される。直前まで同じものであったので、記録は非常に近いと言えるのだ。このことを、悪党どもは利用したのだ。あるときは、アルのように見せかけて天罰をかいくぐったのだ。

なぜ、肉体を持たない弥勒如来でなく私が造った人間の、肉体を持つ弥勒如来となる必要があったのか？

本来なら、肉体があるので、如来でなく、菩薩に留まるはずなのだ。

なぜ……

この疑問もやっと解けた。そして、何処かが、何か、オカシイと思っていたことが解けたのだ。M.9 0の東北関

東大地震を起こし、多くの人命をとっていても慈悲の一つも感じないアル、……………どこか変だ。

私は、一つの仮説をたて、思い切って、それを実証することにした。

仮設

私は、アルしかし、俊兼である。すでに、この時までには大山は消滅させている。アルと名乗っていたものは、俊兼だとね。

実証

私は、エブラハム、イサクヤコブの神であった。そして、モーゼの神であった。モーゼの神であったエブラハムの神に、「これから、今の私の中

にある存在アル（と名乗っている俊兼を）消滅させる。完全に消滅をさせてしまうと肉体も死んでしまうが、意識が無くなった後、死を迎える直前に、あなたに、この肉体に入りたい」と、そして、「もし、まだ、俊兼があるならば、それを追い出して、入れ替わってほしい」とね。

それが、今までの疑問に対しての、無理のない回答を与える仮説の実証であったのだ。思い切ってそれを行っている。まだ、意識は失ってはいない。天照如きに、また、八百万の神、出口家からの総攻撃に、大きく傷ついていたことを思い出す。寝ればその間、地震はこず、おきていれば、数分おきに地震が来る。こんな

中途半端なマントラは今まで存在しない。マントラが効いているように見せかけていたようだ。マントラとは、マントラの主が決定し、造った言葉の力であり、一度発動すれば、寝ていようと、起きていようと、効果は同じだ。必ず実行されるものなのだ。そして、一番不思議だったのは、睨めば、天井から吊るしているものは、前後左右に動くはずなのに、肝心な時に動かないことがあったのだ。対策でよく使う、応転原理という天地創造主しか使えない神業が効かないのだ。体調が悪いからと思っていたが、そうではなく、本当のアルではなかったということが、すべての原因だったようだ。本物と入れ替わったために、使えないのだ。肝心な最も

重要な神業が……。悪党はこうして、じわじわと私を苦しめていった。が、この対策でやっと先に進める。次の地震は6月6日から8日までM9.2を記録する予定だ。7月はこない。

少し余裕ができてよかった。弥勒、つまり、3 6 9 なのだ。3は3月11日の地震だ。

次は、6、つまり、6月だ。予言はそのように伝えていた。

2 - 4 未来のアルからの接触

実は、とても不思議なことがあって、その時には、どうなっているのか？何を言っているのか分からなかった

ことがあったのだ。

時は2011年2月28日、この霊界物語を、出口王仁三郎などとの打ち合わせを終わり、この物語の最初の項目を記述し、考えを進めている時のことだ。突然、言葉を伝えてくるものがいた。その時に、今後は、天照大御神に委せて、私は隠居することを考えていたのだ、それは、無論アルとしての偽物・俊兼、王仁三郎、上田なお、天照大御神、スサノオの尊の策略だった。上田直は、天照大御神が付いていて、お筆先として彼女の意見を中心に、出口王仁三郎には、スサノオの尊が付いていて、この二人が喧嘩をしながら、大本教の進むべき方向性を決めていたのだ。

つまり、出口家と、天照は、同じ穴のムジナだったが……。

突然、声が聞こえた、「あなたが、対策を止めるならば、あなたが唱えている「マントラの内容を」未来で、変更できるようにしてくれぬか？」私は、その伝える内容の重要性に敏感に反応したが、ほぼ反射的に、「そのようにする」とマントラで唱えていたのだ。その時には、天照と思っていたが、念のため、「誰か？」と尋ねると、「知っていると思っていたが……私は、未来のアルだ」と言ったのだ。無論、何を意味するのか、その時には分からなかった。が、

いま、2011年3月20日になれば、そ

の意味がはっきりとわかった。つまり、未来のアルとは、今の正統な・本当のアル、聞いたアルは、本当のアルと思っていたが、出口、天照、スサノオ、なおなどの策略で作られた俊兼という偽物であったのだ。その時に、反射的に回答していたことが、天地創造主のなせる業であり、はたまた、今の私・正統な・本当のアルが、未来から、未来になって、「自らを偽物である」と気づき、「訂正するであろうマントラと、消滅させるであろう出口、天照、スサノオ、なおたちへの対応ができるように」との、神業であったのだらう。

今となれば辻褄がすべて合うのだ。不思議なことだが。神の対策ではこのような出来事は、非常に多く起こ

るのだ。

重要なことは、必ずや、私は、切り抜けて、対策ができるのだということである。なぜなら、だから天地創造主なのだからね。

2-5. 仕組まれた罫

私が釈迦の時より、お世話になっているC家が岡山県矢掛町にある。今世紀も、私と同じく人間界に同時に降臨され私をサポートしてくれている S.C さんだ。その家のルーツは、孝霊天皇に繋がる。孝霊天皇の子が中国地方を治めるために、ここに住み着き、中国地方を治めた。天智天皇とも繋がっており、家は、平城

京の朱雀門に相当するのだ。ここ一体は、あの大物主が徘徊し、平安を維持していた。

多くの対策を行って、多くの問題点解決して行った。2011年3月25日には、伝えるものから、朱雀門から南東に向かって130mのところに行け、そこにはあるものがあるぞ！」とね。それを私は実行し、その場所にいたもの、大物主と卑弥呼との子供二人・双子(実は四つ子であった)を見つけた。彼らは、我存在アルの手伝いをしたいと伝えてきた。大いに彼らは力を発揮し、対策もはかどった。二人を連れたまま岡山協会本部に戻った。そして、新幹線で名古屋に戻ったのだ。そして、一日経過した

後、直ちに私を攻撃してきたのだ。結界の中にいたこと、周りにいるものたち以上の力を彼らに与えていたこと。彼らは大蛇であることなどの理由があり、また、身体と神体および守護していた、モーゼ、アーン、リディアなども傷つけてしまった。

仕組まれていたことであるが、何度となく信用し、裏切られる、そんな攻防となって、やはり、体力を失った。

2 - 6 弥勒の世とはいつできる世界？

出口王仁三郎も一番気にしていたが、弥勒の世とは、いつできるか？
といふ疑問である。

人類への最後の審判が行われているが、この審判が行われた後にくる世界、これが、弥勒の世である。

今の世界のように、地球上にある物質界を構成要素とするものではない。審判により、地球そのものも、すべての物質は、精神界の構成要素に分解され、精神界の構成要素で構成されるものに、置き換わり、消滅するのだ。人間も消滅するということだ。

つまり、弥勒の世とは、すべてを精神界で構成した世界となる。今の世のような物質界は二度と創る気はない。

もともと人間を造った、いきさつは、

靈界のものどもの希望であったのだ。
もっと、幸せ感を味わいたいという素
朴な希望からだった。

その希望を叶えるために、人間を
創ったのだが、そこから大いなる私
の心配が始まったのだ。

そして、ついに、人間は、神を捨て、
神を愚弄し、神を攻撃までするよう
になったのだ。他の神々までも、なん
とこともあるうに、人間の肩を持つも
のどもも現れた。原子、遺伝子、宇
宙開発という神の領域にまで手を染
め、また、嘘をつき、自分たちの領分
を超えて、地球に棲むものたちへ、
住人たちへ危害を与えるようになって
きた。 無責任な人類よ !!

2 - 7 地獄と魔界について

私のHFや、YouTube での私の解説で伝えているが、地獄と魔界はまったく関連性はないのだ。ほとんどの方々が大きな勘違いをしていると考えている。特に、キリスト教の国、米国などの映画や読み物にも、地獄の悪魔が・・・という記述をよく見るが、それは、間違いであって、事情を知らない人間がまた、嘘をついているのだ。

2 - 7 - 1 魔界がなぜあるか？

どこにあったのか？

